

研究課題：巨大リスクにどのように立ち向かうか？ イスラエルとの共同研究

研究課題/領域番号：18KK0048

研究種目：国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))

研究代表者：京都文教大学・総合社会学部・教授 筒井 義郎

(概要) ※2018 年度実績報告書より抜粋

本年度は、11 月末の研究資金の交付決定を受け、改めて国内の 3 名の研究分担者、およびイスラエルの 4 名の研究協力者と連絡を取り、研究体制および研究内容の確認・構築の作業を行った。イスラエルチームの 1 名 (当初のチームリーダー) が体調不良のため、リーダーを Shahrabani 教授に当面、交代した。国内の分担者とはメールでやり取りをしたほか、数度会って、意思疎通を図った。その過程で、やはり両国のチームが会って信頼関係を築き、両国の置かれた状況についての相互理解を深めることが本プロジェクトの遂行のためには不可欠であるとの結論に達した。協議した結果、イスラエルチームのうち、体調不良の BenZion 教授を除く 3 名が、2019 年 7 月に日本を訪問し、代表者が所属する甲南大学にて、日本側 4 名と会合を持つことを決定した。その際の主たる話題として、日本においては地震・津波・噴火・大雨などの自然災害と原子力発電の被害にどう備えるかは大きな課題であるが、軍事リスクについてはいまだ潜在的リスクにとどまっている点を説明する一方、イスラエル側ではその逆に軍事リスクは日常的である一方、自然災害としては大火事の事件以外は、それほどの被害認識がない(らしい)という、両国の状況の違いについて理解を深めることが第 1 である。研究の内容については、まず、アンケートにおける質問事項の概要を日本側で取りまとめ、それをイスラエル側に送付した。次年度の初めにイスラエル側からの反応がある予定である。2019 年 7 月の会合では、アンケート草案について意見の齟齬があった点について議論することも、重要な課題である。